

平成28年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第6回

平成28年10月4日（火） 午後6時30分～ 総合学習センター

『教育論文の書き方』

講師 六ツ美北中学校教頭 深津 伸夫 先生

●『教育実践のまとめ方 ～教育実践論文の書き方を中心に～』

講師 六ツ美北中学校教頭 深津 伸夫 先生

1 はじめに

・「書かなくては」から「書きたい」へ・・・「実践したい」にもつながった。

職員の仲間の雰囲気より、書く意欲が高まった。

2 なぜ教育実践論文を書くのか

(1) なぜ教育実践論文を書くのか

①書くことによって子供を育てる・・・教師、担任として、子供を成長させるために書く。子供の可能性を引き出すために書く。

②自分の実践を振り返る・・・自分の実践を確かめる。実践を見直す。次の実践につなげる。

(2) 教育実践論文を書く意義

①教育指導が充実する・・・手だてや指導方法が明確になり、自信をもって指導ができるようになる。実践を振り返ることで、より良い指導をめざす姿勢が生まれる。

②研究の価値を知る・・・見通しをもった指導の良さに気づく。「偶然子供が成長した」のではなく、「意図をもった計画のある成長」をさせる。

③教師としての喜びを感じる・・・子供の成長した姿を具体的にとらえられるようになる。実践をやり遂げた充実感や自信が生まれる。

④自分の宝になる・・・実践をまとめることで、自分の財産になる。

3 研究実践の組み立て

(1) 実践と理論のバランス

○理論だけでなく実践が大切。論文のための実践ではない・・・授業の中に理論も実践もある。

実践 ・自己研鑽に励む・・・教材開発、教材研究、魅力ある授業作り

理論 ・教育論文の書き方を学ぶ・・・形式、自分の主張が伝わる工夫

・先行研究を知る・・・先人の優れた研究を知る

・創造的に研究を進める・・・子供の個性の尊重、教師の創造性を大切に

○理論を基にした実践をする・・・実践と理論を絡めて考えると、育てたい子供の姿が見える。

○実践の中に理論を見いだす・・・実践の中には、自分なりの理論がある。

○実践の記録を詳細に残す・・・子供の変容をとらえ、子供の学びを残す。教師の手だてにより、子供がどう成長したのかを記録する。

○子供の姿から思いや考えを読み取る・・・子供の思いや考えを大切にしたい実践。

○手だての有効性を検証する・・・多方面から検証する。

○仮説が正しかったのか（妥当であったのか）を検証する・・・子供の変容をとらえて検証する。

(2) 理論に基づく実践

①自分への問題提起・・・仮主題（育てたい子供像）の設定

②子供の実態把握・・・主題の確定

③仮説の設定・・・何のための仮説か

④授業実践・・・仮説に基づいた実践

⑤まとめ・・・検証

⑥次の実践・・・①に戻る

4 教育実践論文の形式

・読み手に伝わる書き方の工夫が必要・・・形式が分かると書きやすい。



<講師の深津先生>

(1) 教育実践論文の基本構成

序論・・・5～10%

本論・・・80～85%

結論・・・10～15%

(2) 形式のモデル

モデル①・・・1 研究主題の設定の理由 2 研究の目標 3 研究の仮説 4 研究の計画と方法

5 研究の内容 6 研究の成果 7 反省と課題 文献・資料

モデル②・・・1 研究主題設定の理由 2 育てたい子供の姿 3 研究の仮説 4 具体的な手だて

5 授業計画 6 授業実践 7 考察 8 成果と課題 文献・資料

モデル③・・・はじめに 1 研究主題設定の理由 2 目指す子供像 3 研究仮説と手だて

4 授業の計画と実際 5 成果と今後の課題 おわりに

など

(3) 論文構成の各項目

①**主題**・・・主題は論文の顔！どのような顔をイメージするか。魅力的な顔にしたい。

②**主題設定の理由**・・・問題の提起。「なぜこの研究をすることが必要か」という価値や意味づけ。

③**研究の目標**・・・研究で明らかにしたいこと、追究すべきことを簡潔に書く。箇条書きでも可。

④**研究の仮説**・・・「○○において (対象 a)、◇◇◇◇すれば (仮定部分 b)、◎◎になるだろう (結論 (目指す) 部分 c)」目指すのは「主題」であり、「子供の姿」である。この部分は途中で変えるものではない。仮定となる部分が研究の柱となる。仮説と手だてで、手だてが仮説の裏返しや繰り返しにならないようにする。

⑤**研究の方法 (計画)**・・・仮説の「仮定」となる部分。仮説と手だてを表記する。子供の変容を通して検証するために、抽出生を選ぶことが多い。実践の時にいくつか手だてを用意しておく。そうすることで、手だてが実践中に違うと思っても変えることができる。

⑥**研究の実際**・・・計画的に進めることで、自分の実践を見直す機会となる。子供の姿で、仮説と実践結果を明確に結び付けて述べる。全員が変容 (成長) したことが、抽出生を通して語られるようにする。

⑦**考察**・・・できるだけ多くの資料を残し、それらを精選した資料から客観的に述べる。事実を示して考察すること。事実を述べている部分と解釈を述べている部分を区別する。仮説を肯定する事実だけでなく、肯定も否定もしない事実や、否定する事実も取り上げて考察する。手だてが有効でないまま仮説を検証することはできないので、実践の中で有効な手だてを再考し、仮説を修正した後、論述するとよい。数値に頼りすぎない。

⑧**結論**・・・本論で展開したことを簡潔にまとめて書く。箇条書きでも可。考察の中で結論づけるとよい。考察とのずれがないように。

⑨**研究のまとめと今後の課題**・・・本研究を通しての自分の主張をまとめる。次へつなげる。

⑩**引用文献**・・・著者、書名、年号、発行所、引用ページを記す。

(4) 推敲

・必ず読み返す。書いてあるものがすべてではない。自分だけが見えたり聞こえたりするものがあるが、書いてあるものだけで主張する。読み手は書いてあるもので判断する。

- ・自分の実践を知っている先生だけでなく、自分の実践を見ていない先生や役職の先生に見てもらおう。

5 さらによい論文にするために

- ・優秀論文に学ぶ・・・先輩の先生の論文を見せてもらう。優秀論文に触れる。気になる論文があれば、直接問い合わせてみる。「教育実践論文16」「教育実践論文21」(どちらも岡崎のもの。実践がおもしろい)「県の論文集」(理論の構築は参考になる)

★キーワードを探る

- ・時代の流れを読む・・・社会情勢や教育現場をとりまく状況のとらえ。子供が身につける資質。
- ・子供の実態を把握する・・・目の前の子供を見つめ、その実態を的確に把握。子供に願う。
- ・学習指導要領について・・・新しいものにとびつくだけではなく、ずっと言われ続けていこと(不易と流行)も探るとよい。

★最後に…

- ・まず書いてみる！意欲が大事！！
- ・ぜひ役職（特に、教頭・校長）の先生に見てもらってほしい。役職の先生方は待っている。

専門教科が算数・数学以外の先生や、まだ論文を書いたことがない先生方にも参加していただき、大変学ぶことの多い研修会となりました。深津先生のお話から、論文の形式や論立ての方法なども大切ですが、それ以上に、「目の前の子供を自分の実践によって成長させたい」という強い願いをもって実践し、教育論文に取り組むことが教師として大切なことだと感じました。

＜竜海中学校 栗山 茂三＞